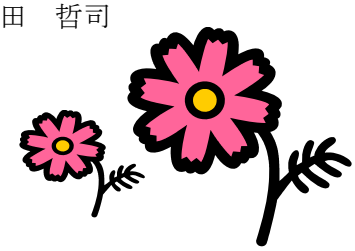
宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第２０号（Ｈ２３．１０.）
宮崎県都城市妻ヶ丘町２７－１５
ＴＥＬ：0986-23-0223　ＦＡＸ：0986-24-5884　　校長　前田　哲司

質実剛健（しつじつごうけん）

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」

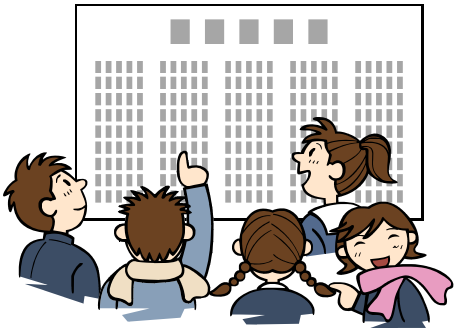


進路実現に向けて！

道

自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道、広い時もある。せまい時もある。のぼりもあればくだりもある。坦々とした時もあれば、かきわけかきわけ汗する時もある。

この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまる時もあろう。なぐさめを求めたくなる時もあろう。しかし、所詮はこの道しかないのではないか。



あきらめろと言うのではない。いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、ともかくもこの道を休まず歩むことである。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか。

他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しもひらけない。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、賢明に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。

「道をひらく」松下幸之助　より

今、２年生はキャリア探究で大学調べを行っていますが、進路実現について、再度考えてみましょう。進路実現を図る上で、勉強はどう考えればいいのでしょう。勉強は進学のためにするものではないことを考えてほしいと思います。勉強は自分の可能性を発見したり、将来の可能性を発見したり、将来の希望を叶えたり、見いだしたりするためのものです。

私は、「道」の文章で「自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか」というところが好きです。私自身弱い人間なので、「他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道はすこしもひらけない」という意味もよくわかります。附属中生の中には、自分の意志でなかなか決めきれず、友だちが〇〇に進学するから自分も……という人がいるかもしれない。しかし、ここであえて**「自分だけしか歩めない大事な道ではないか」**というこの文章を強く押したいです。そして、附属中生一人ひとりに、自分に与えられた道を大事に歩んでもらいたいと切に思います。附属中生はつき合えばつき合うほど人それぞれにさまざまな能力を持っていると感じます。**その能力を発見、発揮するためには、素直さや謙虚さが大切であり、根気強さも必要です。**家庭内での協力、学校での勉強やさまざまな活動を積極的に行い、自分探しの道を歩み続けてほしいです。　今週から**「学力アップ旬刊（10/11 ～ 10/25）」**になります。**中間テストは１０月２６日～２７日、中高一貫校外模試は１１月４日に実施します。**何のための勉強なのか、今一度考えてみましょう。頑張れ、附属中生！

「論語から学ぶ」その２

子曰わく、「学びて思わざれば、則ち罔し。思いて学ばざれば、則ち殆し。」
孔子の先生がおっしゃった。
「人から学んだだけで、自分で考えてみることをしないと、何もはっきりとわからない。ひとりで考えこむだけで広く学ばなければ、狭くかたよってしまう危険がある。」

安岡定子著「こども論語塾」より

車椅子野球を体験する！

　車椅子に乗ったままボールを打ち、走り、守る「車椅子野球」を１０月１５日（土）に附属中２年生が体験しました。福祉を学ぶ総合学習の一環で、「半身不随でも野球がしたい」とルールを考案した宮崎市の中武裕之さんらも一緒にプレーし､生徒たちの熱戦を喜ばれました。チームは内野７人、外野４人の計１１人。ワンバンドで投じられたスポンジのボールをプラスチックのバットで打ち、ボールが吸い付くように工夫されたラケットや手袋型の特製グラブで捕球する。走者にボールをぶつけてアウトにできることも特徴です。～車椅子野球は、中武さんが２００６年１０月から、友人の協力も得て、半年ほどかけて、ルールづくりや道具の素材選びをした。中武さんは、車椅子野球普及委員会の代表を務め、宮崎市の大学で年に１回、講義や模擬試合をしています。中武さんは「実際に乗ってみないと車椅子の大変さは分からない。（車椅子野球が）障がい者への理解につながればうれしい」と望まれています。（朝日新聞より）

＜生徒の感想＞

○　車椅子野球を通して私は、改めて車椅子を使って生活しなければならない方々の苦労を感じました。車椅子にのった状態だと、遠くにあるものは取りづらいし、とっさの時に動きづらかったです。しかも、私たちはあの短い時間の中だけで困ったことが多かったのに、それを毎日続けている方々はどんなに大変なのだろうと思いました。だから、これからの生活の中で、声をかけてみて、できる限りのことは協力していきたいと思います。

○　私は、今回車椅子野球をしてとても楽しいスポーツだと思いました。野球と違うルールや車椅子などがなれなくて最初の方は、上手にできませんでした。特に車椅子で進んだり、曲がったりするのはとても難しかったです。車椅子にのってる方にはたくさんの苦労があるんだろうなと改めて感じました。最後の試合では車椅子になれて、とても楽しむことができました。障がいの有無や性別に関係なく楽しめる車椅子野球はすごいと思いました。県内だけでなく全国的なスポーツになってほしいです。

○　私は、車椅子野球を通して、２つ感じたことがあります。１つは、車椅子の使い方の大変さです。守備の時、私のところにボールがきたときは取れましたが、動かなければならないとき、うまく動けませんでした。もう一つは、車椅子でもスポーツができるということです。そのスポーツの元になったスポーツに少しルールを付けくわえるだけで、また別の楽しさがありました。私たちは、健康で足が使えます。このスポーツを通して、車椅子の大変さを感じ、何か簡単に私たちができることはしなくてはならないなあと思いました。

第６３回宮崎県中学校英語暗唱・弁論大会

～興梠さん（暗唱）最優秀賞！～

　第６３回宮崎県中学校英語暗唱・弁論大会は１０月１４日宮崎市の市民文化ホールでありました。暗唱、弁論の部で泉ヶ丘附属中２年生の興梠七海さん（暗唱）と廣田佳穂さん（弁論）が出場しました。見事に興梠さんが最優秀賞となりました。

　本校の米澤先生によると、興梠さんは、出番が２９人中２２番で県大会の雰囲気を十分に知って落ち着いて、興梠さんらしい説得力のある語り口で練習の成果を十分に発揮できた発表ができました。廣田さんは、きれいな発音を本番でもひろうできました。聞いている人たちに、伝わるよう気持ちを込めて発表しました。テーマであった自分の中の敵と闘う姿を今回の英語弁論でも見せてくれました。少しの差で最優秀賞を逃してしまいましたが来年につながる発表でした。